

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: 兵庫県立文化体育館 Jコート

試合区分: No. 418 少年女子 2回戦

期 日: 2006(H18)年10月2日(月)

主審: 賣口 さおり

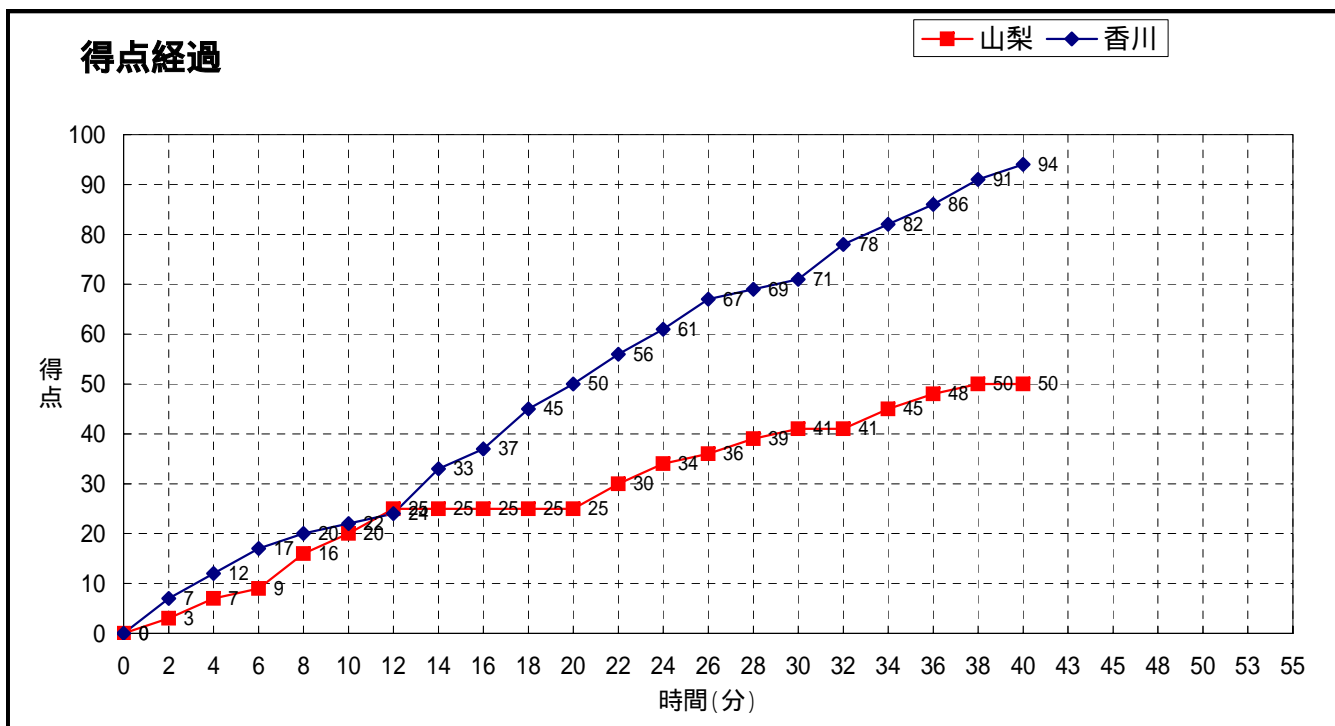
開始時間: 10:00

副審: 嶋田 博昭

終了時間: 11:23

香川						山梨									
94						50									
(四国)						(関東)									
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	矢野 千尋	4	0	1	2	0	4	*	三浦 実夏	5	0	2	1	2
5	*	松井 恵利納	22	0	10	2	0	5	*	大森 由佳	8	0	4	0	3
6		山口 結衣	3	1	0	0	0	6	*	松下 文香	6	2	0	0	2
7		林田 尚子	1	0	0	1	0	7	*	名取 結衣	4	0	2	0	0
8		太田 有香	0	0	0	0	1	8	*	佐藤 梓	13	1	5	0	0
9	*	井上 愛	22	2	6	4	1	9		山本 美佐子	0	0	0	0	2
10	*	宮崎 成美	33	0	14	5	3	10		吉田 愛美	0	0	0	0	4
11		徳永 有香	1	0	0	1	0	11		渡辺 智美	2	0	1	0	1
12		安部 友美	2	0	0	2	1	12		藤江 安衣	2	0	1	0	3
13	*	東原 綾那	4	0	2	0	1	13		萱沼 美穂	0	0	0	0	1
14		三谷 彩	1	0	0	1	0	14		池谷 早也香	7	0	3	1	1
15		川田 舞華	1	0	0	1	0	15		大柴 早貴	3	0	1	1	1
コーチ		井上 晃						コーチ		金子 義人					
合計			94	3	33	19	7	合計			50	3	19	3	20

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール



ゲームレポート

第1ピリオド、両者ともマンツーマンディフェンスで始まった。お互いにオフェンスがスピーディーに展開した。香川は積極的にシュートを打ち、#9井上が3Pシュート2本、バスケットボール・カウントとボーナス・スローの3点プレイ2本を含む14得点の活躍を見せ、試合をリードした。一方、山梨は#4三浦と#5大森のインサイドのプレイと、アウトサイドのフレアスクリーンを組み合わせオフェンスを展開した。そして山梨#8佐藤らが速攻からの得点を重ね、追い上げに成功。2点差で第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドに入っても、お互いの速い展開は変わらない。残り8分で山梨#6松下の長い3Pシュートが決まり、ついに山梨が25-22とリードを奪った。しかし、ここから香川が素晴らしい集中力を発揮した。ディフェンスでの素早いカバーリングを徹底して山梨の勢いを止めると、速攻を連発して立て続けに13得点を奪った。残り5分となって山梨はたまたまタイムアウトを取るが、香川の勢いは止まらない。香川は#10宮崎を中心に全員が驚異的なシュート決定力を見せる一方、第2ピリオドの後半8分間で山梨の攻撃をノーゴールと完全に封じ込めた。圧倒的な爆発力で香川が25点差をつけ、試合の勝敗を決定づけた。

第3ピリオド、山梨は#8佐藤がシュートを決めて反撃を始めた。しかし、香川は素早いカバーリングと速攻からの得点で、手を全く緩めない。山梨は#14池谷らが得点を重ねたが、ゲームの主導権は#5松井が奮闘した香川が握ったまま、リードは30点にひるがった。

第4ピリオドに入ると両チームともメンバーの交代が激しくなった。香川はカバーリングやトランジションの速さを随所に発揮、さらに#10宮崎の安定した力強い1on1を中心に試合を有利に進め、快勝した。

担当者: 末吉 明夫(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会